

もしも水がなくなったら

聖園女学院中学校

一年 山本 智尋

みなさんは「水」についてどのように考えていますか？そう尋ねると多くの人が「考えたことがなかった」や、「あって当たりまえだと思っている」と答えると思います。このように日本人が「水」を軽視し続けることは日本の危機だと思えます。

私は、一時期よくテレビで天然水の宣伝が流れているのをよく見かけました。その時は、ずっと水は尽きないものだと思っていました。が、どうもそうはいかないようです。

そもそもなぜ日本人は「水」を軽く考えてしまうのでしょうか。私は原因は二つあると思います。一つは日本は水源が豊富だからです。驚いたことに、日本には湧き水が全国に約一六〇四六個もあり、各都道府県に必ず十

個以上は湧き水があることがわかっています。もう一つ原因として考えられるのは、日本は水道水を飲むことができるからです。水道水が飲めるのは、なんと世界一九六カ国のなかで十二カ国しかないのです。日本はその十ニカ国の中の一つに入っています。そのため水道水が飲めるのが当たりまえだと思っています。

このようなことから私は、日本人が「水」について軽く考えてしまっていると思います。

ここまでは日本についての話でしたが、神奈川県も例外ではありません。神奈川県には湧き水が約六三二個もあり、これは全国で七位にあたる数です。そしてその湧き水がある場所の多くが秦野市や南足柄市にあり、どちらの場所にもまわりに森林があります。そこで問題となってくるのが外国資本の土地買収です。近年、海外からの土地の買収が増えています。その「土地」にあるのは湧き水がある森林です。森林を買収した理由も「湧き水」が目当てだと思えます。いまでも神奈川県箱根町で二件、外国からの森林買収がありました。神奈川県は湧き水がどんどん奪われていってしまうのも時間の問題なのです。とはいえ、「そんなの都市伝説でしょ？」と思

うかもしれません。しかし、いまから十年以上も前にはすでに土地買収は始まってしまっていたのです。

例えば、二〇一〇年に北海道では森林の買収状況の調査が行われました。すると、道内の私有林七か所、計四〇六ヘクタールがすでに外国資本に買われてしまっていたのです。四〇六ヘクタールということは、野球グラウンドが約四〇六個分もの大きさです。これだけの大きさの森林が買われてしまっていたのです。場所は、倶知安町とニセコ町が各二件、砂川市、蘭越町、日高町が各一件。合計で七件も買われてしまっていました。利用目的は、資産保有、牧草地用などで、水目的とはされていませんでした。しかし、このとき北海道議会が政府に提出した意見書には、「我が国における現行の土地制度は、近年急速に進行している世界規模での国土や水資源の争奪に対して無力であると言わざるをえない。」と書かれています。そこで疑問なのは、なぜ北海道議会は「土地を買われた」ことを「水資源の争奪」と書いたのかです。実は、森林を取得した場合、法的規制がかかっていなければ、所有者は自由に開発できるのです。もちろん地下水を汲み上げることもできます。法的には土地の所有者

に、その地下にある水の利用権があると解釈されているのです。それらのことから北海道議会は、「土地を買われた」ではなく、「水資源の争奪」と書いたのだと思われます。

これからも水を「当たり前」に使っていきけるように、「水」についてあまり軽視せず、日本人一人一人が水について考えていく必要があると思います。そのためにも「気づいてから」ではなく、「気づく前」から行動できるように、まわりにも呼びかけ、自分も水に関心をもっていきたいです。